



国宝 八橋時絵箱 尾形光琳作
写真提供 東京国立博物館

年に当時の小渕内閣の教育改革国民会議の事務局担当となって以来、微力ですがこの改正作業に長くかかりました。新旧の基本法とも、教育の目的は「人間形成、健康な国民の形成」で変わりありませんが、新基本法では新しく教育の目標として「知育だけでなく徳育、体育も大切であること」など5つを掲げています。教育基本法の改正に加え、学習指導要領の改訂などにもかわり、大変思い出深いものがあります。

教育に求められる変革

- 町田** グローバル化の対応など大学教育のあり方も大きく変化しなくてはなりません。社会で求められる能力も変化してきており、大学入試も改革されるようです。一方で大学生の学力低下が指摘されており、高大接続ということも言われています。
- 銭谷** 昔にくらべ、今の大学生の方が授業には真面目に出席しているのではないのでしょうか。しかし、自ら課題を見つけ、考え、まとめていく、これを教育関係者はPISA型学力といっているのですが、これが不足しているように思われます。しかし、この点は大学教育だけの問題というより学校教育全般の問題であろうと思います。
- 町田** 企業が求める人材としては、コミュニケーション力、イノベーション力などに重点がおかれるようになってきています。大学入試はこれまで知識を問うことに重きがおかれてきましたが、それも変わりつつあるのではと思います。
- 銭谷** わが国の全国学力・学習状況調査においても、知識理解を問うA問題と、コミュニケーション力、課題発見力などを問うB問題が出題されています。このB問題はOECDの学力到達度調査（PISA調査）にみられるPISA型学力というもので、こうした学力を育てていくようにしなければなりません。ただ、客観的な評価が難しいなど検討すべき課題もあります。
- 町田** 教員免許がなくても大学では教えることがで

- きます。小・中・高校でも、教育以外のいろいろな分野でキャリアを積んだリタイアシニア層が教えることができれば人材育成の幅が広がると思うのですが。
- 銭谷** 教員特別免許制度など、他の分野で活躍した人材に教育分野に入ってきてもらう道筋はできています。一方で、青少年の人間形成のためにしっかりした教育を行っていくためには、やはり、教員免許制度は必要だと思います。
- 町田** リベラルアーツ（教養）の必要性が再度いわれている一方で、企業では即戦力となる特に理系人材の育成を求めているということがあります。しかし理系であってもリベラルアーツは必要だと思います。また、選挙権が18歳からとなり、主権者教育の観点から高校においてもリベラルアーツ教育を高めるべきではないでしょうか。
- 銭谷** 主権者教育は非常に大切です。学習指導要領の改訂で、高校に必修科目として「公共」や日本史、世界史を融合して近現代史に重点をおいた「歴史総合」が新設されるようです。
- 町田** そのような科目の新設には全く同感です。歴史では、まず現代史を学んだ方がよいのではと思います。
- 銭谷** そうですね。歴史教育は大変重要です。今は、小学校では、歴史は人間が創ってきたという観点から人物中心の歴史を、中学校では世界史を背景とした日本の歴史を、高校では近現代の世界史、日本史をそれぞれ勉強するようになっています。人間社会は、歴史的、地理的な存在であることを認識し、そのうえで公共のためにどうつくすかを考えてもらうことが重要だと思います。

秋田の教育

- 町田** 館長は秋田ご出身ですが、秋田県の子どもは学力・体力で全国トップレベルにあります。その要因としてどのようなことが考えられるのでしょうか。
- 銭谷** いろいろな分析がありますが、まず3世代同居が多く、教育熱心な家庭環境や地域社会が子どもを見守るといった良い環境があるのではないのでしょうか。また、先生方も指導力のある方が多く、先生を尊敬し大切に作る風土があることも要因ではないかと思います。
- 町田** 大家族は教育のみならずいろいろな意味で大切ですが、残念ながら時代はますます「個」に向かっているようです。地方の良さは、大家族とコミュニティにあると思うのですが。
- 銭谷** 私が子どもの頃、50年前になりますが、秋田

- 県は学力調査で上位ではありませんでした。ですから、平成19年に全国学力・学習状況調査が再開され結果を見た時、秋田県のレベルにはびっくりしました。
- 学力については、福井、石川などの日本海側の県が上位で、秋田とも共通点があると思います。一方で、以前ほど都道府県の間、都市部、へき地との間の差がなくなっており、教育環境の整備に各地が力を入れているということだと思います。
- これからの大きな課題は、子どもの貧困問題への対応です。教育環境に加えてスポーツや修学旅行等の学校行事に参加できないような体験格差も問題で、対策を打っていく必要があります。
- 町田** 不登校やいじめの問題もあります。学校教育というより、むしろ家庭教育の問題であるかもしれません。
- 銭谷** 家庭教育に行政として立ち入ることは難しいのですが、子どもの健やかな成長を願わない親はいないということで、行政として応援していくことだと思います。
- 町田** 地方創生ということがいわれていますが、まだまだ、首都圏の偏差値の高い大学に生徒を送り込むことが高校の評価になっていたりします。どうしたらよいか悩ましいところです。
- 銭谷** 地元的高等教育機関を整備することだと思います。秋田にいい大学ができていくことは大変良いことですし、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。地方の高等教育の環境整備という点では、地域の大学、高等専門学校等が連携して地域のための活動を行っている金沢が参考になると考えます。地方の高等教育機関がより整備され、企業との連携がうまくみ合うようになればよいと思います。
- 町田** 秋田の国際教養大学は一つの成功例だと思います。また、秋田県立大学も地域課題解決に成果をあげています。
- 銭谷** 地元の人が地元の大学を評価することが大事だと思います。

アクティブシニアを地方に

- 町田** 地方出身で現在大都市圏に在住している意欲十分なシニア層に、地元に戻って活躍してもらいたいということで、北都銀行では今アクティブシニアの受け皿としてCCRC（生涯活躍のまち）プロジェクトを秋田市で進めています。反響が大きく、ニーズは確かにあると感じています。



スクールプログラム実施風景
写真提供 東京国立博物館

- 銭谷** アクティブシニアは一つのキーワードですね。個人差はありますが、60、70歳代の多くは若々しくて活動的です。地方に戻って活躍してもらおうということは大変良いことだと思います。
- 町田** 大都市と地方の2地域居住も可能だと思います。地方に外部の目を入れることにより一層活性化すると思います。
- 銭谷** シニア層は、人生の楽しみ方、チャレンジの仕方も分かっています。「子育ては秋田、年をとったら再び秋田」ということですね。福祉関係の予算が膨張していますが、それを抑制することになるかもしれません。
- 文部省時代に外国から英語教育のための青年に來日してもらった事業（JETプログラム）を起ち上げましたが、70歳ぐらいの人の応募もありました。「いつまでも青春」と言っていました。
- 町田** 座右の銘は、秋田での高校時代に巡りあった言葉と伺っています。
- 銭谷** 当時、校長をされていた鈴木健次郎先生の「汝、何のためにそこにありや」という言葉です。私が2年生の時に退任されたのですが、退任のあいさつを書き起こしたものを何度も読み返しました。
- 文部省に入省したての頃、井内慶次郎さんという大先輩から鈴木先生の話の伺い、大変誇らしい気持ちになったことを覚えています。
- 井内さんは、事務次官、当館の館長も務められた方ですが、一時期、文部省で鈴木先生と一緒に仕事をされ、鈴木先生が公民館運動の先駆者として全国を巡って、青年教育、婦人教育の場としての公民館設置を説いて回られたということでした。井内さんからは、「君はいい人に教わったな」といわれました。
- 良い先生に巡りあえ、大変幸せな高校生活をおくりました。
- 町田** 博物館、教育問題、秋田の思い出まで幅広いお話を伺うことができました。本日は、貴重なお時間をいただき大変ありがとうございました。